

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	0270201312		
法人名	医療法人弘愛会		
事業所名	グループホームふれあい温泉		
所在地 (電話番号)	〒036-8252 青森県弘前市旭ヶ丘二丁目6番地の4 (電話) 0172-35-8282		
評価機関名	社団法人青森県老人福祉協会		
所在地	〒030-0822 青森県青森市中央3丁目20-30 県民福祉プラザ3階		
訪問調査日	平成21年8月27日	評価確定日	平成21年10月26日

【情報提供票より】(平成21年7月31日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成) 15年 3月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	12 人	常勤	9人, 非常勤 3人, 常勤換算 9.3人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨造り		
	2 階建ての 階 ~ 2 階部分		

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	15,750 円	
敷金	有() 円 () 無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有() 円 () 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
または1日当たり 1,350 円				

(4) 利用者の概要(7月31日現在)

利用者人数	18 名	男性	6 名	女性	12 名
要介護1	0 名	要介護2	7 名		
要介護3	5 名	要介護4	4 名		
要介護5	2 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 84.8 歳	最低	64 歳	最高	97 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人弘愛会 弘愛会病院, 医療法人弘愛会 弘愛会クリニック
---------	---------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

以前は温泉旅館として使われていた建物を改修し、1階をデイサービスとして、2階をグループホームとして利用している。客室であった部屋を個室として使用しており馴染みの家具を多数持ち込んでも十分なスペースが確保されている。ダイニングは旅館のラウンジのような場所を区切って利用し、工夫して家具などを配置して入居者が過しやすい空間作りに努めている。母体法人が病院ということもあり、医療連携体制が充実しているので、医療面で安心できる。職員は明るく元気であり、入居者への言葉掛けが丁寧で敬う姿勢でケアに取り組まれている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>改善課題として上げられた自己評価は、全職員で話し合い評価する機会を設けた。地域のグループホーム協会に加盟するホーム同士で相互に施設見学を行い、同業者同士の交流も活発に行われている。権利擁護や身体拘束などについては全職員が知識を深めるべく研修会を行っている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価は何度かにわたり全職員で話し合いのうえ行っている。このことにより評価事業に対する理解も深まった。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>町会長や包括支援センター職員、入居者家族、行政職員も積極的に参加され、ホームの運営に関する内容が話し合われている。特に防災や備蓄食に関して、積極的に意見交換が行われている。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部10, 11)</p> <p>面会時や支払時などに入居者の暮らしぶりや健康状態を報告し、積極的に希望や意見などの吸い上げを行っている。またユニット入口に意見箱を設置している。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>地域の納涼祭などに参加させてもらい、また、運営推進会議などを通じて地域へホームの存在をお知らせし連携体制を築き、地域へ溶け込めるように努めている。</p>

2. 評価結果(詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	昨年度、全職員で話し合い理念を作成し、リビングやスタッフルームなどに掲示している。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎朝のミーティングで復唱し理念を把握するよう努めている。また、各々のユニットに掲示されている。		
2. 地域との支えあい					
3	4	隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている。事業所は地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。	地域納涼祭などの行事に参加し、地元の人々と交流を図っている。また運営推進会議を通じ地元と防災連携体制の充実を図れるように働きかけている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	5	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	何度も話し合いを重ね、全職員で自己評価に取り組んだことにより、昨年の評価内容から、現在の自分達のケアを見直すきっかけとなり、改善に取り組んでいる。		
5	6	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	外部評価での評価を報告し改善に向けた意見交換が行われ、その意見を取り入れている。また地域の住民や行政職員など積極的に関わっており、防災についての連携体制や非常食の備蓄などについて話し合いが行われている。		
6	7	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域密着型運営推進会議を二ヶ月に一回開催し、行政と連絡を取っている。		
7	8	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	権利擁護や成年後見制度について施設内研修にて全職員が学ぶ機会を作り、必要な入居者がいれば活用できる準備はできている。		
8	9	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内研修会にて職員間で話し合われており、日々注意を払って防止に努められている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制					
9	10	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>各ユニットの計画作成担当者が同席し、説明を行って契約を交わしている。</p>		
10	12	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>毎月、ホーム便りを通じて入居者の暮らしぶりを報告し、預かり金の明細書もホーム便りに同封して報告している。健康状態など緊急を要する報告は随時電話などにて報告している。</p>		
11	13	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>面会時に近況報告を行いながらご家族の意見を伺っている。また運営推進会議にも家族の代表が参加されており、家族の意見を吸い上げる取り組みを行っている。</p>		
12	16	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>新入職員には、入居者に対し自己紹介をする等、関係を上手く築けるような精神的サポートを行っている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
13	17	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ホーム内外の研修に積極的に参加してもらい参加後は復命発表などを行い伝達研修を行っている。職員の自発的な資格取得を推奨しており、希望があれば勤務調整などを行い資格取得を推奨している。		
14	18	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地区のグループホーム協会でホーム同士の事業所見学を推奨しているため、随時ホーム間で見学を行い、良いところを学んでこれのような体制を作り取り組んでいる。		
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	23	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居直後は、できるだけ多く家族に面会に来てもらい、入居者本人が安心できる環境づくりに取り組んでいる。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	24	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	調理や日常生活内での作業など、入居者が経験して身に着けた知識を、介護職員が教えてもらったりしながら、日々の生活を互いに楽しめるよう取り組んでいる。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
17	30	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>ホームで共に生活され亡くなられた入居者のお通夜に参列を希望される入居者をサポートする形で通夜に参列された。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	33	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>定期的カンファレンスを開催し、ご家族から面会時にいただいた意見を反映させ、プラン作成を行っている。</p>		
19	34	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>基本的な見直しは六ヶ月に一回であるが、状態の変化に応じ、本人・家族・看護師などと話し合いを持ち、ケアプランの見直し作成をしている。</p>		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
20	36	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>デイサービスと併設である利点を活かして、デイサービスの行事などに参加させてもらっている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21	40	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からのかかりつけ医への受診を大切な本人のニーズとして捉え、入居後も適切に通院支援を行っている。		
22	44	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時、カンファレンスの時等随時家族と話し合いを持ち、希望を取り入れるようにしている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	47	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	接遇研修を生かし、日常の言葉かけや対応に配慮している。ケース記録は第三者の目に触れぬようスタッフルームからは持ち出さないよう取り決められている。		
24	49	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ひとり一人の一日の過ごし方を概ね把握しており、入居者のペースに合わせた内容にしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	51	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>食器は温泉旅館で使用されていた物を使用し、雰囲気のある盛り付けなどが行われている。朝夕はホームで作っているが昼はデイと共通ということで調理は行われていない。重度の入居者の摂食状況に合わせた食事形態を提供している。職員は入居者のサポートに徹しており一緒に食事はされていない。</p>		<p>入居者と職員の関係をより深いもの出来るように、日々の生活を共にいき、その中の食事も生活の一部として捉え、入居者と共に職員も食事参加することを再度検討してみたいかがでしょうか。</p>
26	54	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>	<p>もともと温泉ホテルであった建物を改装して利用しているため、お風呂は利用者より好評を得ている。</p>		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	56	<p>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>	<p>レクリエーションや外出会など日々の生活の中に随時組み込まれており、変化のある生活を支援している。パン作りなどは入居者に調理過程に役割を持ってもらい楽しんで取り組んでもらっている。</p>		
28	58	<p>日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している</p>	<p>基本は通院や外出会の希望を事前にとって外出支援を行っているが、出来る限りその時々入居者のニーズに合わせられるよう対応を行っている。冬場はショッピングモールに併設されている映画館へ外出する等の支援をしている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(4)安心と安全を支える支援					
29	62	<p>身体拘束をしないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>身体拘束に当るような事例は存在せず、施設内研修会にて職員間で話し合われており、日々注意を払って防止に努められている。</p>		
30	63	<p>鍵をかけないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる</p>	<p>グループホームは二階に位置し、一階のデイサービスと玄関は共通であり、格段の配慮は不要としている。</p>		
31	68	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	<p>年2回防災訓練が行われている。今後は運営推進会議を通じて地域との連携の強化に努めるよう取り組んでいる。</p>		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
32	74	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>入居者それぞれの食事・水分摂取量を記録し、健康管理の面からも支援されている。</p>		
33	75	<p>感染症予防</p> <p>感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)</p>	<p>感染症マニュアルが整備されており、季節性の感染症などは随時ミーティング時などで話し合われている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</p>					
<p>(1) 居心地のよい環境づくり</p>					
34	78	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>リビングスペースは旧温泉ホテルの客室前のロビーを2つに分けて作り上げられているため自然光の採光は少し少ない感じもあるが、工夫を重ね利用者の生活の場となるように家具などの配置に気を配り、過しやすい雰囲気となるよう努めている。</p>		
35	80	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>和風ホテルの客室をそのまま居室に仕立てられたのでスペースは十分あり、家具などの持ち込みもなされ過しやすい環境作りをされていた。</p>		

 は、重点項目。